

「本のセルフ貸出サービスを始めます！」

市長

「本のセルフ貸し出しサービスを始めます」についてです。

中央、北、南図書館の3館にセルフ貸出機や返却機等を導入いたしました。

令和5年4月11日から、利用者がセルフで本の貸し出しや返却を行うことができるようになります。

セルフ貸し出しサービスを始めるために、昨年の7月から図書館、図書室に所蔵している約81万冊の本に、ICタグを貼り付け準備を進めてきました。

サービス導入のメリットとしては、窓口の職員とは非接触となるために、新型コロナウイルス感染症への対策となること。借りた本を他人に見られないのでプライバシーの保護が実現できること。貸し出しや返却が素早く簡単に行えるようになり、利用者の利便性の向上につながるなどがあります。

図書館としてもDXを推進させ、業務の効率化を実現いたしました。利用者の皆さまには、便利になった図書館を感じていただき、来館の拡大につながることを期待しています。

■質疑応答

記者

セルフ貸出機を導入するとのことですが、対面での業務は、これまでどおりされるということですか。

市長

そのとおりです。

記者

セルフ貸出機を利用する場合、自分で書棚にある本を選んで、それをパソコン上で操作するのですね。

市長

はい。

記者

分かりました。返却については、これまでも時間外や休みのときには返却できる仕組みがあったと思うのですが、これは同じく続けるものなのでしょうか。

市長

同じです。

記者

同様のものを開館日にも運用させるということですね。

市長

はい。

記者

分かりました。ありがとうございます。

記者

これは、分かる範囲で結構なのですが、ほかの自治体、県内のほかの自治体でもし同じような取り組みを行っているところがあったら教えてください。

教育長

いま神奈川県内では神奈川県 5 市 1 町が導入済みのとのこと。具体的に申しますと横浜市は中央図書館と戸塚図書館の 2 カ所、あとは川崎市、小田原市、大和市、海老名市、寒川町になります。

記者

これに伴う費用について教えてください。

教育長

今回、I C タグの添付作業で約 5,400 万円、それから I C 機器の購入費として 7,200 万円、合計約 1 億 2,600 万円がかかっております。

また今後、年間の保守として、I C タグをそれぞれ新しい本に貼っていかなければなりませんので、それを一括購入する経費、それから機器の保守管理の経費で、年間 380 万円前後の維持費がかかるの見込んでいます。

記者

そうしますとざっくりいって全体でどのくらいとでしょうか。

教育長

まず導入経費として 1 億 2,600 万円、以後の維持管理費として年間 380 万円とみていただけたらと思っています。

記者

いまのお話の関連で、セルフ貸し出しサービス化によって、窓口負担は減ると思います。これによって人員が少し減るということはあるのでしょうか。

教育長

はい。今回の導入で令和 5 年度から 3 名の削減を図っております。

記者

そうすると、セルフ貸し出しシステムの導入コストとの差し引きはどうなりますか。

教育長

平均的な給与が年間 8 百数十万円だったと思います。これが 3 名で 2,500 万円が年間ごとに減額になっていくと考えていただければと思います。

記者

先ほど5市町で導入済みというお話でした。

今回の導入理由として、コロナ対策ということで、非接触で本を借りることができるということが理由の1つでありました。これらほかの5市町も含めて、コロナの流行が始まって以降こういう導入が進んでいるのでしょうか。

教育長

他市につきましては、具体的な導入経緯というのは、なかなか把握しにくいのですが、実験的にこれまでも導入してきたとは理解しています。

今回、非常に大きな変革がありますのは、いま図書館の本には、すべてバーコードが打たれています。

これまでですと、そのバーコードを職員が1冊ごとに照らし合わせて貸し出しのデータ処理をしていました。これですとやはり1冊1冊相手方に渡さなければいけないと私ども考えて、このコロナの発生に伴って非接触的でより効率的にできないかという観点から変更をいたしました。

バーコードと一緒にICタグを付けたことによって、いま10冊まで一律貸すことができるのですが、バーコードの場合、1冊ごとに貸し出し処理を行いますので、10冊添付しなければいけません。資料に添付の写真のように、台の上に10冊ボンと置くだけで一気に読み取りが可能になりますので、ここでまず効率が図れます。

それから、返却の場合も、館内にある返却ボックスのなかで、自動的にそれを全部読み取っていきますので、接触がなくなる、職員がその分の負担軽減が図れるという2つの要素が考えられたことから一気に導入を図りました。

「横須賀市公式ホームページのリニューアルについて」

市長

本日、横須賀市のホームページをリニューアルいたしました。

本日はリニューアルの概要や新たに追加された機能など、新しいホームページにて、ぜひご覧をいただきたいポイントをご紹介します。と思います。

SNSを通じた広報の活発化や市民ニーズの多様化によって、ホームページにおける情報発信の重要度がますます高まっています。

このような状況から誰もが使いやすく、欲しい情報がすぐに見つかる、誰からも愛されるホームページを目指して、細部まで様々な整理や工夫をほどこしながら、横須賀市のホームページをリニューアルいたしました。

スクリーンにて、新しいホームページをご覧いただきながら、リニューアルのポイントについて簡単にご説明をいたします。

主なポイントは3点あります。ポイントの1点目、「総合トップページ」の新設です。

これまでのトップページの機能やデザインを一新して「総合トップページ」を新設いたしました。ご覧のとおり、まちづくりの指針や魅力が伝わる写真を掲載しています。

ホームページに訪れてくださった方が、横須賀に興味、関心を持ち続けてもらえるよう、定期的に掲載写真を更新していく予定です。

そして、画面下のメニューには、すべての行政情報が網羅された「総合案内」や、「福祉・子育て」、そして「観光・イベント」、「ビジネス」など対象目的別の入り口を用意しました。

高齢者、子育て世代、事業者、市外在住の方など、誰もが簡単に「知りたい情報」にダイレクトにたどりつけるように工夫をしました。

次に、ポイントの2点目は、「福祉・子育てコンテンツ」の拡充です。

市民の皆さまからのお問い合わせや、情報量が多い福祉・子育てコンテンツを分かりやすくまとめた「特設ページ」を新設いたしました。

こちらでは、お困りごとのスムーズな解決を目指し、多岐にわたる福祉・子育てサービスを検索できる機能のほか、年齢や対象、目的に合わせたメニューを導入しました。

そして、最後にポイントの3つ目は、「写真・動画の積極的な活用」です。

「もっと見たい」と思っていただけページを目指し、文字情報の羅列ではなく、掲載情報が直感的に一目で分かるよう、写真や動画を各所に豊富に活用しました。

まずは総合案内のページをご覧ください。ファーストビューには、横須賀市の旬な動画を掲載しています。そして、ページ中段以降では、注目情報やイベント情報を写真で紹介し、市政に親しみをもってもらえるよう構成しました。

そして、次のページには、より詳細な情報を掲載していますが、たとえば「防災・安全」の分類であれば、このように消防車と救急車の写真でご案内するなど、掲載情報が一目で分かるように各分類に即した写真をふんだんに用いています。

また、動画については、見やすく探しやすい特設ページ、「よこすかチャンネル」を新設しました。こちらでは、横須賀市の魅力あふれる動画や暮らしに役立つ動画などを、多数掲載しています。

また、「横須賀の1年」を身近に感じていただけるように、式典などの年間行事を一連で紹介します。

このように横須賀市ホームページをご利用いただく皆さまに、ご満足いただけるようデザインを一新し、機能を充実させました。

そのほかにも、緊急時の情報発信やゴミの分別検索など、暮らしに役立つコンテンツの拡充をしています。詳細は、お手元の配付資料とともに、ぜひホームページをご覧くださいと思います。

今後、引き続き、皆さまにとって「使いやすく、欲しい情報がすぐに見つかる」情報発信に注力してまいります。リニューアルにつきまして、私からの説明は以上です。

■質疑応答

記者

市のホームページの年間の閲覧数は分かりますか。今後どのぐらい増やそうとか、何か目標みたいなのはございますか。

経営企画部長

令和4年度、3月25日時点の年間の閲覧数は約2,400万ページビューでございます。

ひと月で約200万のビューがあるというところです。今後の目標につきましては、特段、目標を定めているわけではありませんが、より見やすい形となりましたので、今後も、随時、ページビュー数などを確認しながら評価していきたいと思っております。

市長

目標は1億でしょう。

記者

続いて、民間企業などでは、「問い合わせ先はこちら」というように、意見や苦情などを受け付ける場所として、よくポンとクリックしたら開くようになっていますが。たとえば、「この案件は市役所のどこに聞く」というような、ネットでの問い合わせなどを受け付けるページはありますか。

市長

（画面を示して）このようにページごとに、ご意見を受け付けるようになっています。

記者

分かりました。ありがとうございます。

市長

できれば、まだ所管課には伝えていないのですが、最終的には観光客がどういうところへ行きたいという、趣味趣向をクリックすると、それなら「ここここです」というストーリーを示せる、そういったものをつくりたいと考えています。

例えば、自然に触れたい、芋掘りをしたいという人に、ストーリーをつくって、イメージを絵面で示し、リンク先へ飛ぶというのをやりたいと考えています。

所管課には伝えていなかったのだけど、次の機会にやりたい、ということです。

記者

はっきりした目的がなく、「いいところないかな」と調べる人は、結構いると思います。

市長

はい、そう思います。

記者

その目的に対して、キーワードを打ち込むよりも、クリックしたらイメージが出てくる方がよい。

市長

はい。

記者

確かにそう思います。

市長

今回は、ここまでよいものをつくってくれたので、さらに進化させたいと思っています。

所管課に、これを見たらもう横須賀に行きたい、横須賀に住みたい、と思えるようなものをつくって欲しいと伝えたら、一生懸命作ってくれました。

次は、ぜひ、これをどんどん表に発信していきたい。その工夫を考えていければいいと思っています。

記者

ホームページのリニューアルは、前回はいつぐらいだったのでしょうか。

広報課長

直近では、令和2年10月に、1度トップページのリニューアルを行っています。それ以来になります。

市長

トップページの以外の部分で、もっとビジュアル的に、分かりやすく、美しいものをつくって欲しいということを伝えておりました。それからずっと検討して、やっとこういう姿になったと理

解していただければと思います。

記者

令和2年10月のリニューアルは、トップページだけだったのですか。大幅なリニューアルはしなかったのでしょうか。

広報課長

令和2年度のリニューアルの際は、トップページのデザインを変更しました。大幅なリニューアルは行っていません。

記者

他市と違って、横須賀市だけしかないというのはありますか。

広報課主査

映像をふんだんに利用しています。動画をたくさん埋め込んだというのが特徴的だと思います。

■案件以外の質疑

記者

先日、高校ダンスグランプリなど、今年度、市長が立ち上げた2つの大きなダンス大会が、無事に終了しました。

私どもも取材をさせていただいて、かなり盛り上がっていたなという印象があります。

これらのダンス大会は、2つとも大成功だったと思いますが、あらためて、どういうものだったかという振り返りと、来年に向けての展望があれば教えていただきたいと思います。

市長

私は横須賀をアーバンスポーツとダンスの聖地にしたいと思っています。

アーバンスポーツとダンスと横須賀は親和性があると思っていて、昔からそういう土地柄でした。それを復活させたいという思いで開催しました。

ダンスについては、本当に感激いたしました。

ダンスに対して、社会には、おそらく、まだ偏見があると思うのですが、参加した高校生は、ものすごく礼儀正しかったです。

ストイックに練習をして先生たちと積み上げたものを発表する大会が横須賀で行われたことを、大変誇らしく、嬉しく思いました。子どもたちは本当に素晴らしくて、大会が終わったあとに泣いていて、あれを見るとまさにダンスの甲子園みたいな感動がありました。

本当に時代が変わったなという印象と、横須賀はそういうことに対する感受性がすごく強いところだということを訴えることができたと思っています。

これからもぜひそのような場をつくっていききたいと思っています。高校生たちのあの姿にとっても感動をいたしました。

記者

次回の日程などは決まっていますか。

市長

まだ決まっていますが、毎年、開催する予定です。